



# 子どもたちの生活と表現活動 いま子どもたちの生きるかたち

人はみな、それぞれの生活の場で、自分を表現し、他者の表現を受けとめ、さらにはたがいの共同の表現を生み出しながら生きています。子どもたちもまた同じです。個性はさまざまですが、誰もがそれぞれの個性に応じて、自らを表現し、それぞれの生きるかたちを作り出しています。そこでいう表現は、いわゆる音楽や絵画や文学という狭義の表現活動に限りません。学びや遊びもまた表現です。生活のかたちそのものが、子どもの一つの表現だともいえます。今回の連続講演会では、このような観点から子どもたちの表現活動を再考します。子どもたちはいま、学校の中で、あるいは生活の中で、自らを表現しているのでしょうか。

## 第1回 講演会 2009年10月24日(土) 午後1時30分～4時

### 子どもと表現 —— 子どものウソは「嘘」か？

**内田 伸子** お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科教授

場所：  
記念館2階  
講堂

**要旨**

子どものウソは本当に「嘘」なのだろうか？子どもは他人をだますことができるのであろうか？ウソはいつから「嘘」になるのか。語ること、伝えること、思い出すことを取り上げ、ウソが生成される過程を明らかにする。幼児期の終わりに相手の立場に立つてふるまうことができるようになると、相手を思いやってつくウソも見られるようになる。大人は子どものウソを、「嘘」と決めつけてしまわず、子どもの心の中に起こっていることへの洞察を思いやりをもち、子どもの育ちを見守っていただきたい。

## 第2回 講演会 2009年11月14日(土) 午後1時30分～4時

### 学校の中での表現を通して生まれる子どもたち

**奥村 高明** 国立教育政策研究所教育課程センター教育課程調査官  
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

場所：  
総合研究棟  
N101教室

**要旨**

子どもが彫刻刀で線を一本彫る。このたった一つの造形行為ですら世界から独立したものではない。周りには、友達や先生などの人、材料や用具、教室などの具体物、学習という出来事、あるいは学校の制度、文化など一見無形なものなど様々な資源がある。それらの資源とその子の経験の重層的な関係が表現活動として現れる。同時にそこで、その子らしさというアイデンティティが成立する。このことをビデオデータなどの事例から検証していく。

## 第3回 講演会 2009年12月19日(土) 午後1時30分～4時

### 思いを受けとめるからだ・関係をつなぐ動き —— ダンスセラピーの視点から

**川岸 恵子** 大阪府立急性期・総合医療センター非常勤  
**崎山 ゆかり** 武庫川女子大学短期大学部

場所：  
総合研究棟  
N101教室

**要旨**

子どもたちのからだから表れる思いを、私たち周囲の大人はどのように受けとめ返し返せばよいのか。ダンスセラピーは動きを通じて自己の表現能力を獲得しながら、自己認識を促進し、心身の統合や自己の回復・成長をめざす芸術療法の一つである。アメリカに始まったこの療法は近年、日本においても医療、福祉、教育などの臨床場面での実践が試みられている。セラピストと対象者双方が身体レベルで関わりあう体験の中でことばやイメージがどのように導き出され、広げられ深まってゆくのかについて、精神科デイケアや知的障害児サークルでのセラピーを担当するお二人から報告していただく。

## 第4回 講演会&ワークショップ 2010年1月23日(土) 午後1時30分～4時

### 即興を通じた「表現」の可能性

**八木原 容子** カール・オルフ研究所

場所：  
記念館2階  
講堂

**要旨**

カール・オルフ研究所(ザルツブルク)での経験から、私が考える「表現する」とは、自分が考え、よいと思ったことを現実化することである。研究所で、この「自分」を見つけるためにさまざまな活動を経験してきたが、中でも即興活動は、私にとってまさに初めての経験と呼べるものであり、現在の私の「表現」のあり方かなりのインパクトを与えた。そこで、ワークショップを通して、即興活動の一つの方法を体験してもらおうとともに、講義ではワークショップについての討論・質問、また研究所での即興活動のケースを紹介したい。

**参加費 各回とも無料**

e-mailまたはFaxによる事前申込を承っております。詳細はHPをご覧ください。尚、当日参加も歓迎致します。

**お問い合わせ先**

奈良女子大学 文学部 子ども学プロジェクト事務局

電話/FAX 0742-20-3957 メール kodomo-gaku@cc.nara-wu.ac.jp

ホームページ http://www.nara-wu.ac.jp/kodomo-gaku/

主催 国立大学法人 奈良女子大学 文学部 「子ども学プロジェクト」

後援 奈良県、奈良市、大和郡山市、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、大和郡山市教育委員会、奈良女子大学附属学校部

